

別紙

1. 事業評価総括表

単位：円

番号	措 置 名	交付金事業者名又は 間接交付金事業者名	交付金事業に要した経費	交付金充当額	備 考
1	公共用施設に係る 整備、維持補修又は 維持運営等措置	雲南市	618,840	618,840	

II. 事業評価個表

番号		措置名		交付金事業の名称	
1		公共用施設に係る整備、維持補修又は維持運営等措置		バス停留所標識柱設置事業	
交付金事業者名又は間接交付金事業者名				雲南市	
交付金事業実施場所				雲南市内	
交付金事業の概要		雲南市民バスは、現在36路線、166便／1日運行しており、バス停留所が市内全域に約450箇所に設置されています。このバス停留所に設置している標識柱は、バスの乗降場所、時刻及び行き先等を掲示し利用者に示すものであるため、利用する上で必須です。しかし、経年劣化による老朽化により、朽ち果てている箇所や標識柱が無い箇所等が存在しています。 このことから、老朽化したバス停留所標識について14基の更新を実施します。具体的な更新内容は、以下のとおりとなります。 ①バス停留所標識柱の製作及び設置：置き型式14基（基礎工事含む）の製作、設置整備 ②バス停標概要（標識部：120mm×220mm、時刻表示部：330mm×220mm、支柱部：60.5Φ×高さ1,600mm、置き型式基礎部：310mm×340mm×340mm）			
総事業費（円）		618,840	交付金充当額(円)		618,840
交付金事業の成果目標		雲南市は平成16年に6つの町村の合併により誕生した自治体です。市内全域が中山間地域で過疎指定されており、面積は約550㎡（東京23区の9割）と広大で、南端の地域から北端の地域までは車で約1時間半を要します。車を持たない市民にとって、この広大な市内を移動するためには公共交通機関が不可欠ですが、市内を運行する民間バス会社は合併前の事業撤退により全く存在しません。そのため、雲南市が直営で市内各地域を結ぶ雲南市民バスを運行しております。 交通弱者の代表である高齢者や児童生徒学生にとって、徒歩で行くことができる範囲は限られており、市内ほとんどの地域ではその範囲内に利用できる施設は存在しないため、市内病院・診療所への通院、スーパー・商店への買い物、市内学校への通学のためには、この雲南市民バスが必要不可欠です。 また、雲南市にはJR木次線という鉄道も存在していますが、こちらは雲南市と近隣自治体である松江市・出雲市を結ぶ別の重要な公共交通機関です。この鉄道と雲南市民バスは接続しているため、市外への移動という点でも雲南市民バスは重要な役割を担っております。 もし、雲南市民バスが存在しなければ、この中山間地域では暮らしていくことが困難になります。また、もしそういった事態になれば、家族や地域住民自らで移動ニーズの対応しなければならず、周辺への負担も増大するため、人口流失にますます拍車がかかり、子育て世帯の転入も激減し、最後には自治体が崩壊してしまいます。したがって、雲南市民バスは地域を支え、市民生活を支える生活交通として非常に重要な役割を担っており、今後も維持していかなければなりません。 また、中山間地域で民家が点在していることから、交通空白地域解消（※自宅からバス停まで半径400m以上離れた地域のことをいいます。一般に、自宅からバス停までの距離が400m以上離れると、日常的なバスの利用は急激に低下します。）を図るため、市内各所（約450箇所）へきめ細やかにバス停を設置しています。バス停の標識柱は、乗降場所や時刻及び行先等を利用者に示すものであるため、今後も雲南市民バスを維持し、利用しやすい生活交通を提供していく上では、このバス停標識柱維持も併せて考慮していかなければなりません。 現在の標識柱は、経年劣化により老朽化したものが増えてきているため、維持に加えて更新も計画的に行っていく必要があります。具体的には、ヘッドマーク部分の劣化によりシールが頻繁に剥がれるものや色あせが発生しているもの、ヘッドマークや支柱部分が朽ちて折れかけているものや完全に壊れてしまったもの等です。ヘッドマークと支柱の結合部分も劣化が激しいことや支柱を交換する場合には基礎コンクリートも交換する必要があることから一部の修繕では対応しきれないため、全体の更新が必要になっています。 更新で新たに作成するものは、ヘッドマーク板や支柱は劣化しにくいアルミ製で耐久性や安全性に優れ、ヘッドマーク部分は紫外線に耐性のある塗料での塗装であるため視認性にも優れるものであり、一度更新すれば維持管理にかかる手間も縮減できます。さらに、埋め込み型ではなく置き型の標識柱を作成するため可搬性があり、ダイヤ改正時にバス停を移設する際など簡単に対応できるものです。 以上のことから、老朽化したバス停標識柱は随時更新し、老朽化したバス停標識を減少させ、視認性・安全性・耐久性に優れたものを増加させていくことにより、バス停利用者ににとってより使いやすく安心安全なバス停になることを目指していきます。			
交付金事業の成果指標		上記成果目標を達成するため、バス停留所標識柱の更新（14基）を実施します。本事業によりH24～H27年度でのバス標識柱更新数は、62基（更新率13.7%）であり、今年度14基更新することにより、更新数が、76基（更新率16.8%）へ改善されることにより満足度は確実に上がると考えられ、標識柱設置後、市民バス利用者から聞き取り調査により満足度100%を目指します。			
交付金事業の成果及び評価		視認性が高く耐久性もあるバス停留所標識柱が設置できたことで利用者の利便性が上がった。今回のバス停標識柱13基の更新によりヘッドマーク板や支柱は劣化しにくいアルミ製で耐久性や安全性に優れ、ヘッドマーク部分は紫外線に耐性のある塗料での塗装であるため視認性にも優れるものであり、更新設置後のバス停標識柱は、維持管理にかかる手間も縮減できます。さらに、埋め込み型ではなく置き型の標識柱を作成するため可搬性があり、ダイヤ改正時にバス停を移設する際など簡単に対応できるものとなりました。市民バス利用者からは「標識柱の場所がわかりやすくなった」「時刻表が見やすくなった」などの満足の高い声（感想）が聞け、平成28年度目標の満足度100%を達成しました。しかし、市内にはまだ多くの老朽化した標識柱等整備する箇所があるため、引き続き来年度以降も整備していく方針です。また、平成29年度、市内全戸配布を予定している「2017年度版 雲南市民バス 時刻表」の表紙へ「一部のバス停は電源立地地域対策交付金を活用して設置しております。」の文言を追加し、市民の皆様にも広く本交付金事業の周知を促します。			
交付金事業の契約の概要					
契約の目的		契約の方法等		契約の相手方	契約金額（円）
バス停留所標識柱設置業務		一般競争入札		有限会社 サンユウ工芸	618,840
		計			618,840
成果及び評価に係る第三者機関等の活用の有無		無		交付金事業の成果の再評価を行う場合の予定年度	平成33年度